

## 活水女子大学卒業式式辞

学長 湯口 隆司

活水女子大学を卒業される皆さんおめでとうございます。今年も来賓の方々、保護者の方々の参列を制限しての卒業式となりました。3年前の1月の感染症が今日まで影響するとは誰も予想できないことでした。スマホ以上に家を出る時に忘れてはいけないのがマスクとなりました。私も何度かドアにカギをかけた後に再びドアを開けて忘れたマスクを取りに戻ったことがあります。皆さんには貴重な一日、一年が、マスクを身に付け、家族や仲間との外食も思うようにできず、県外への旅行も制限され続けた大学生活でした。

これまでも感染症や自然災害によりその都度、町から山里へ逃げたり、町をそのまま移動したりしたことが数十年の単位で私たちの生活ではくり返されてきました。

イエス・キリストの時代、イエスの話を聞こうと集まった人々の多くも病と圧政に苦しんだ人々でした。そのような個人では出口の見えない状況に立たされた人々に神さまは、その数百年前にアッシリアやバビロンに国民全体が連れ去られたときと同じ言葉で語り掛けました。「起きよ、光を放て。あなたを照らす光は昇り主の栄光はあなたの上に輝く。見よ、闇は地を覆い暗黒が国々を包んでいる。しかし、あなたの上に主が輝き出で主の栄光があなたの上に現れる」(イザヤ書 60 章 1~2 節)

「闇は地を覆い暗黒が国々を包んでいる」はまさに、今の世界が現在進行形で直面している言葉です。気候問題、穀物の不足、エネルギー危機、ウクライナ侵略、人間の罪深さは底が知れません。また卒業に際して、親元を離れ、学校の授業の日々から初めて責任を持ち仕事で経済的に自立し生活する大きな営みへの転換を迎えます。その時にも「起きよ、光を放て」と神さまは命じられます。起き上がることへの不安といくばくかの恐怖が皆さんの胸に浮かんでいるかもしれません。

イエス・キリストが弟子として集めたのは湖畔で魚を捕っていた漁師でした。また税金を当時の傀儡(かいらい)政府に納める人々から疎まれる人物もいました。身を売って生計を立てる女性や長い病に苦しむ女性もいました。先ほど読んだ聖書(活水の名の由来の箇所)で登場する女性は、これまで5人の夫がいました。イエスに従った人々の多くは身分が低く社会的影響力のない、出口の見えない状況に置かれた人々でした。しかし他の学校では授業では触れることのない「困難から希望」というテーマや「神さまのご計画」の確かさについて皆さんは学び、礼拝でお話を聞いてきました。

この卒業式には皆さんの保護者の方々が参列されています。ほとんどの方々はたくさん

の経験、不安な体験、困難、忍耐を経験されてこられました。みなさんもこれから学校という狭い世界から広い社会のなかで同様の経験をしていかれることになるでしょう。

保護者の方々と皆さんが今共有しているのは喜びです。しかし保護者の方々だけがもっている最大の喜び、しかも喜びの原点があります。それは皆さんの誕生でした。誕生してオギャーと泣く声、よちよち歩きをし、言葉を覚え、いたずらをして困らせたりしました。仕事をしながらの思春期の子育てはときには大きな困難があったでしょう。温かく見守るまなざしの中で、皆さんは今ここに立っておられます。キリスト教で他者を愛する愛と同じ大きな愛がそこには在ったことを忘れないでください。そして皆さんも受けた愛を分かち合い、周囲を照らす人となってください。このことは活水、活きた水が目指す教えでもありません。

神さまの計画はその時には見えません。しかし神さまは信じて従う人々を確実に育て導いてくださいます。「起きよ、光を放て」という声を聞きとる真摯な生き方を神さまは見守ってくださります。先ほど読んだように「あなたの上には主が輝き出で主の栄光があなたの上に現れます」。真実と勇気をもって社会のステージで自己表現をしていただきたい。その時に、皆さんは周囲を照らす光、人々を安心させる灯火となっております。

暗闇と思える時間にたとえ小さくても周囲をてらす希望の灯火となる、これはとても素晴らしい素敵な生き方です。

神さまがこれからも皆さんと共に在りますように。また育ててくださったご家庭、関わった教職員の方々の上にも豊かな祝福が卒業生と共々にありますように祈ります。